

## 関東の天理教—その1—

関東への伝道経路を述べるには、東京から次第に関東一円に広まっていったことをまず第一に触れねばならない。現在、東京を除く関東の約半数の教会が東京からの伝道である。東京には伝道史上、早い時期に発展した東、東本、麴町の各大教会があり、これら3系統から関東各地に伸び広がり、関東における現在の天理教を作ったと言える。

上記の他では滋賀県から甲賀系統の伝道が栃木県と埼玉県に伝わり周辺に伸びたことと、静岡県嶽東系統の道が隣接する神奈川県に入ったことを述べることになる。

東京は日本の中心地。人も物も東京に流れ込む。逆に東京からも人や物が全国に流れ、情報もまた発信される。天理教も東京へ伝わり、そして東京から関東の各地へ伝えられた。

本号では主に教会数を話題として論じる。数ばかりで面白みに欠けるかも知れないがご容赦願いたい。

現在、関東7都県（以下、「全関東」と記す）の教会数は3,123カ所（『みちのとも』立教175年10月号）。大教会別では東本391、日本橋195、日光135、牛込121、以下高安、深川、本芝と続く（『天理教教会所在地録』立教173年版による筆者の調査。関東地域のみの数）。

これは、現在の大教会別教会数であり、教会が分離して大教会に昇格する制度を考えるなら、元の教会グループ、すなわち系統としての発展過程を見るほうが伝道の流れを正確に捉えることができる。

全関東に存在する教会を系統グループに分けると東系統（東、日本橋、牛込、深川、浅草、立野堀、阪東）の教会が最も多く671カ所。東本系統（東本、本保、本芝、本荏、本理世）が続き633カ所。その他、日光系統（日光、都賀、中根、那美岐）237カ所、嶽東系統（嶽東、佐野原、秦野、沼津）165カ所、麴町系統（麴町、大森町、錦江）159カ所である。

全関東をまず系統別に概観し、次に各県別の状況を考える。

まず東大教会系統から。前号で東大教会から日本橋大教会が生まれ、さらに牛込、深川、浅草大教会ができたことを述べた。これらは全て東京にある。東—浅草の伝道線は埼玉におよび、立野堀大教会となり、日本橋からは群馬に阪東大教会ができた。東系統は関東地方に満遍なく伸びている。

東系統7大教会に所属する教会の合計は785カ所。その内関東に671カ所あり、85パーセントが関東に集中している。

東本大教会系統では本保と本芝が大教会として分離し、本芝からさらに本荏と本理世が大教会になった。いずれも東京にある。東本は東京以外に神奈川、千葉、埼玉にそれぞれ50カ所前後の教会を有し、本保、本芝、本荏は神奈川にかなりの教会を有す。また本理世は埼玉に多くの教会を持つに至った。

東本系統5大教会に所属する教会の合計は828カ所。その内関東に633カ所あり、76.5パーセントが関東である。

日光大教会系統の4大教会は全てが栃木県である。日光は滋賀県から甲賀系統の伝道が入り日光大教会となり、日光から都賀、中根、那美岐の大教会ができた。関係教会は栃木県に最も多く、続いて関東では茨城、群馬、千葉に多い。

静岡県の嶽東大教会から佐野原、沼津大教会が生まれ、佐野

原—神場分教会から秦野大教会が誕生した。神奈川の秦野以外は静岡県である。嶽東系統は本拠地である静岡県東部から隣県神奈川に入り、東京、千葉、埼玉に伸びた。

麴町系統の3大教会は東京に多くの教会をもつが、麴町は埼玉、神奈川に、また大森町は神奈川に10カ所以上の教会を有す。

次に視点を地域（県別）に変え、状況を書いてみたい。

神奈川県は東京と静岡から伝道線が伸びた。東京も静岡も天理教が早く伝わった所。その中間に位置する神奈川へ双方から伝道線が伸びたのは自然の成り行きであろう。系統では東本系統が最も多く、嶽東系統、東系統と続く。

埼玉へはほとんどが東京からの伝道である。東系統が最も多く、170カ所もの教会がある。中でも日本橋、浅草、牛込が多く、県内の大教会である立野堀も多い。次に東本系統が続き、107カ所。東本と本理世だけで90カ所を超える。東系統、東本系統を合わせると全埼玉の半数に近い。また滋賀県甲賀からの伝道で秩父大教会が生まれ、県内に50を超す教会がある。

千葉も傾向は埼玉とほぼ同様、東系統、東本系統からの伝道が多い。東系統73カ所、東本系統56カ所。合わせて全千葉の36パーセント。大教会単位では東本が43カ所と最も多く、続いて深川35カ所、山名34カ所である。さらに埼玉に比べて嶽東系統、日光系統が多い。埼玉は内陸県だが千葉が静岡、神奈川と海路で繋がっていることが嶽東系統の多い理由であろうか。

群馬県は東系統の比率が高い。中でも日本橋が44カ所、日本橋から分離した阪東も44カ所の教会を有している。他の東系統を加えると96カ所。全群馬の44パーセントに達している。次に多くの教会を持つのは日光系統で29カ所。前述したように日光系統4大教会は全て栃木県である。栃木が群馬の隣県であることを考えれば4大教会からの伝道の結果として多いと言えない。日光系統は群馬へ向かわず、栃木県内と茨城県へ、さらに長野県、秋田県へと伸びていった。

栃木県は日光系統4大教会が85カ所の教会を持ち、全栃木の55パーセントを占める。日光は滋賀県甲賀系統の伝道から始まった。関東の多くは東京の影響を受けているが、栃木県だけは滋賀県甲賀の道が伸びたものである。その他では日本橋大教会が30カ所の教会を有し、日光に次いで多い。

茨城県は東系統が一番多く64カ所。中でも深川が34カ所の教会を持っている。日光系統も多く55カ所。その内日光大教会が37カ所の教会を有している。続いて東本系統が23カ所ある。総じて茨城県には東京と栃木から伝道線が伸びたと言える。

関東全域を見るとやはり東京の影響を最も受けている。東京に隣接する神奈川、埼玉、千葉に伝わり、その延長線上の群馬、茨城にも東京の各大教会から伸びていった。系統で言えば東系統と東本系統の割合が大きい。さらに言えば、東系統、東本系統、麴町系統に所属する全教会の81パーセントが関東に集中する。この現状を考えるなら、東、東本、麴町3系統の伝道はほぼ関東地域に力が注がれたと言えるのではなかろうか。

関東の天理教伝道は東京から関東一円に広まったことに、栃木県日光系統の伝道と静岡県嶽東系統との伝道を加えることで輪郭的にはほぼ言い尽くせると考えていい。